2023/05/11 12:29:20 HT.SATO

Mar.1.2024 Copyright 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All Rights Reserved.

１．適用範囲

本書は、DF63W シリーズ圧着端子をケーブル(AWG16～AWG22)に圧着して、圧着ソケットに端子を挿入するまでの手順について規定するものです。

２．コネクタ品名 △2

■圧着ソケット品名

DF63W #－＊ EP－3.96 C
❶ ❷ ❸ ❹ ❺ ❻

❶ シリーズ名:DF63W
❷ ワイヤーシール形状 ＃＝ 無または A
❸ 極数:2～6
❹ コネクタ種別 S :ソケット EP:中継プラグ
❺ コンタクトピッチ:3.96mm
❻ 結線部形態 C :圧着ソケット

■圧着端子品名

DF63(W) – 1618 PCF
❶ ❷ ❸

❶ シリーズ名:DF63(W)
❷ 適合電線サイズ 1618:AWG16～18 2022:AWG20～22
❸ 形態種別/梱包種別 SCF:ソケット端子・リール SC :ソケット端子・ばら PCF:プラグ端子・リール PC :プラグ端子・ばら

	COUNT	DESCRIPTION OF REVISIONS	DESIGNED	CHECKED	DATE
△2	3	DIS-H-00014188	HT.SATO	SZ.ONO	20220621

名 称 TITLE	HIROSE ELECTRIC CO.,LTD.		
DF63W シリーズ ハーネス手順書	APPROVED	KI.AKIYAMA	20141113
	CHECKED	HK.UMEHARA	20141112
	DESIGNED	TO.HORII	20141112
	WRITTEN	TO.HORII	20141112
技 術 指 定 書 TECHICAL SPECIFICATION	ATAD-H0814	△2	1/6

2023/05/11 12:29:20 HT.SATO

Mar.1.2024 Copyright 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All Rights Reserved.

３．ハーネス手順

3.1.ケーブルストリップ

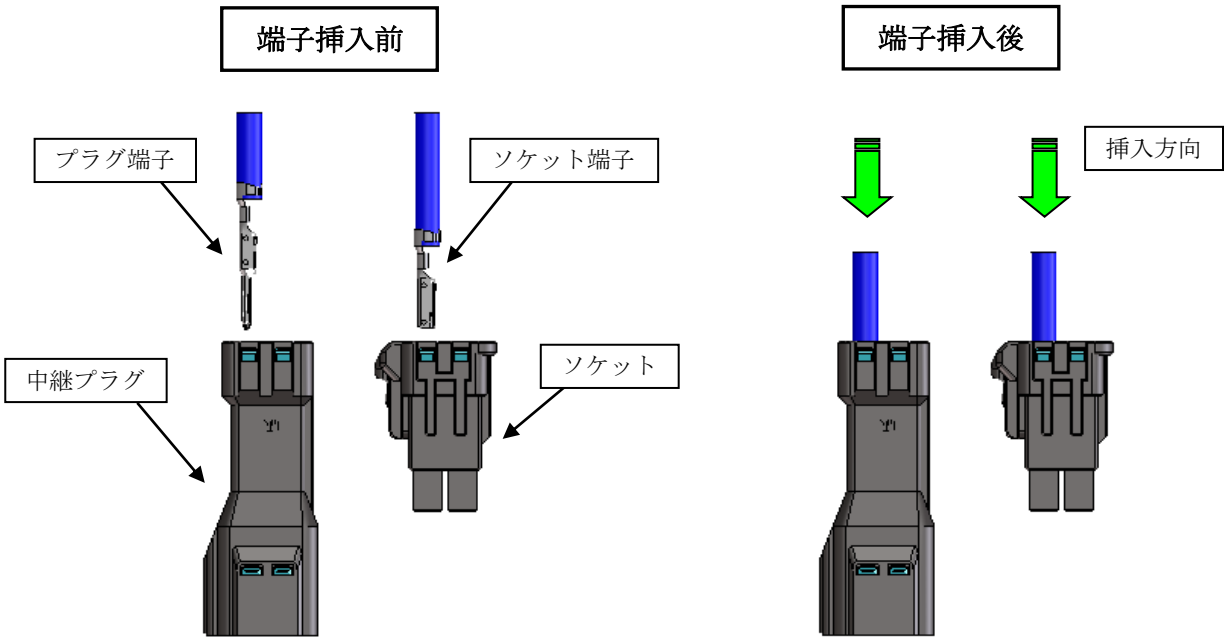
圧着品質基準書（ATAD-H0810/0811）に基づき、ケーブルのストリップを行います。
その際、ケーブル芯線に傷が入っていないかの確認を行って下さい。

3.2.圧着工程

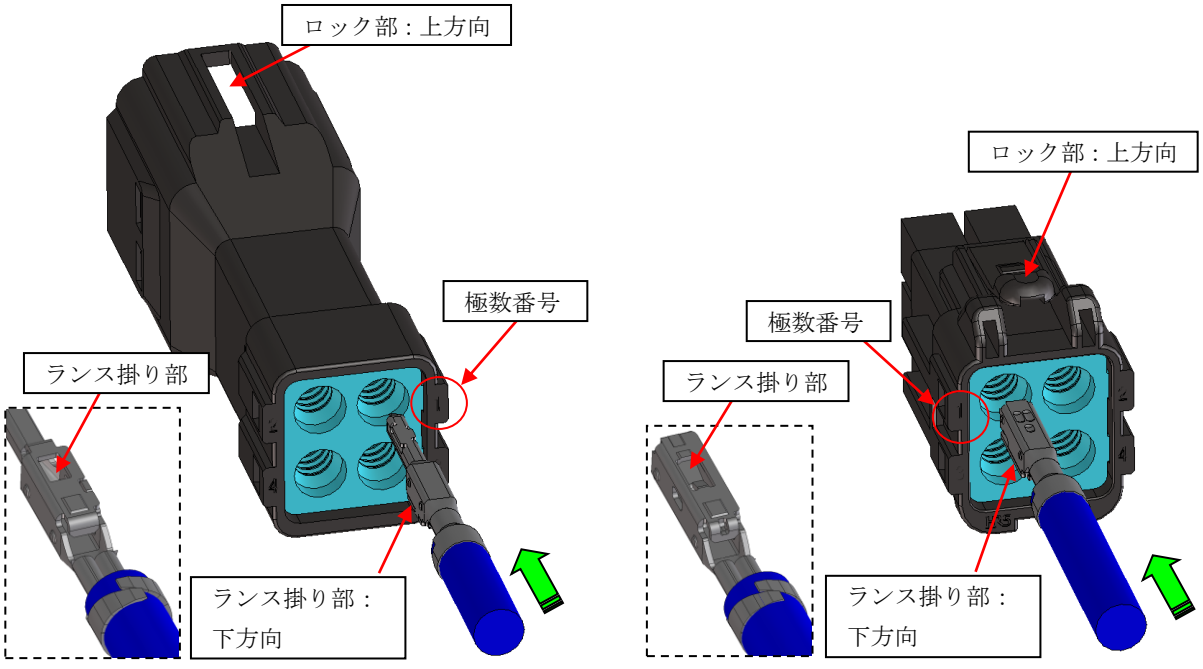
アプリケーター（AP105-DF63-1618-*）を用いて圧着を行い、圧着条件表、
圧着品質基準書（ATAD-H0810/0811）に基づき、圧着ハイト、圧着形状を確認します。

3.3.圧着端子ソケット挿入

圧着された端子のケーブルを持って、圧着ソケットの各端子穴に挿入します。
（下図の矢印方向に端子を挿入。）
※図は DF63W-4EP-3.96C と DF63W-4S-3.96C の場合。

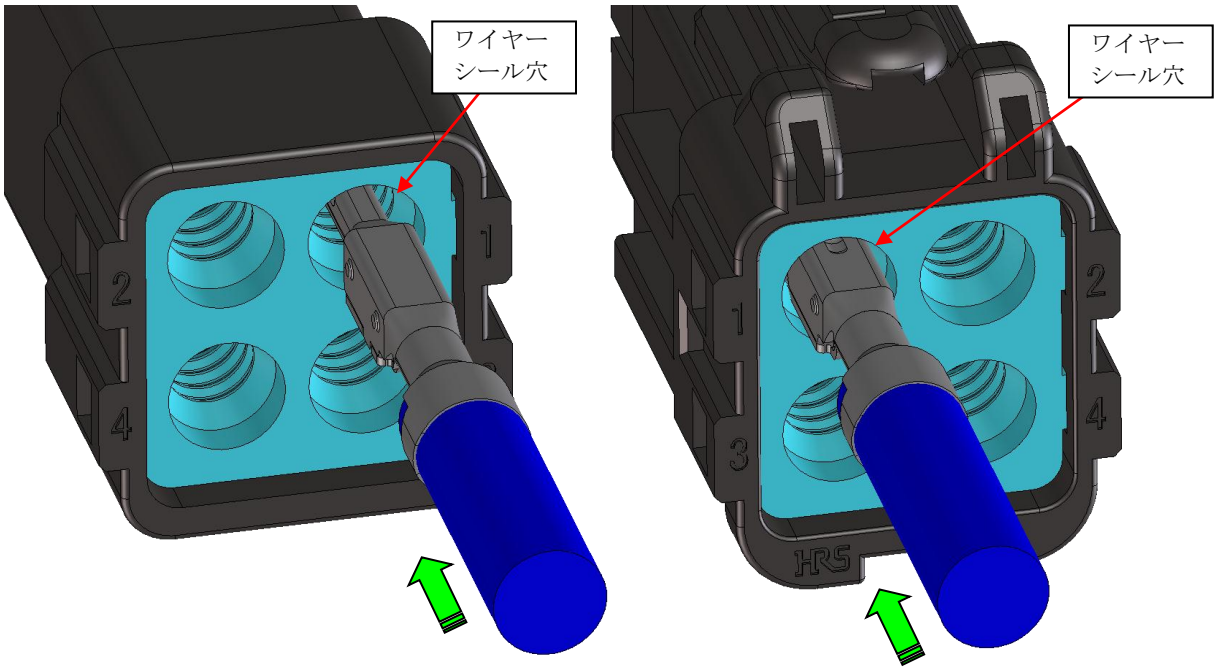


・圧着端子と圧着ソケットの向きを下図のようにして挿入して下さい。

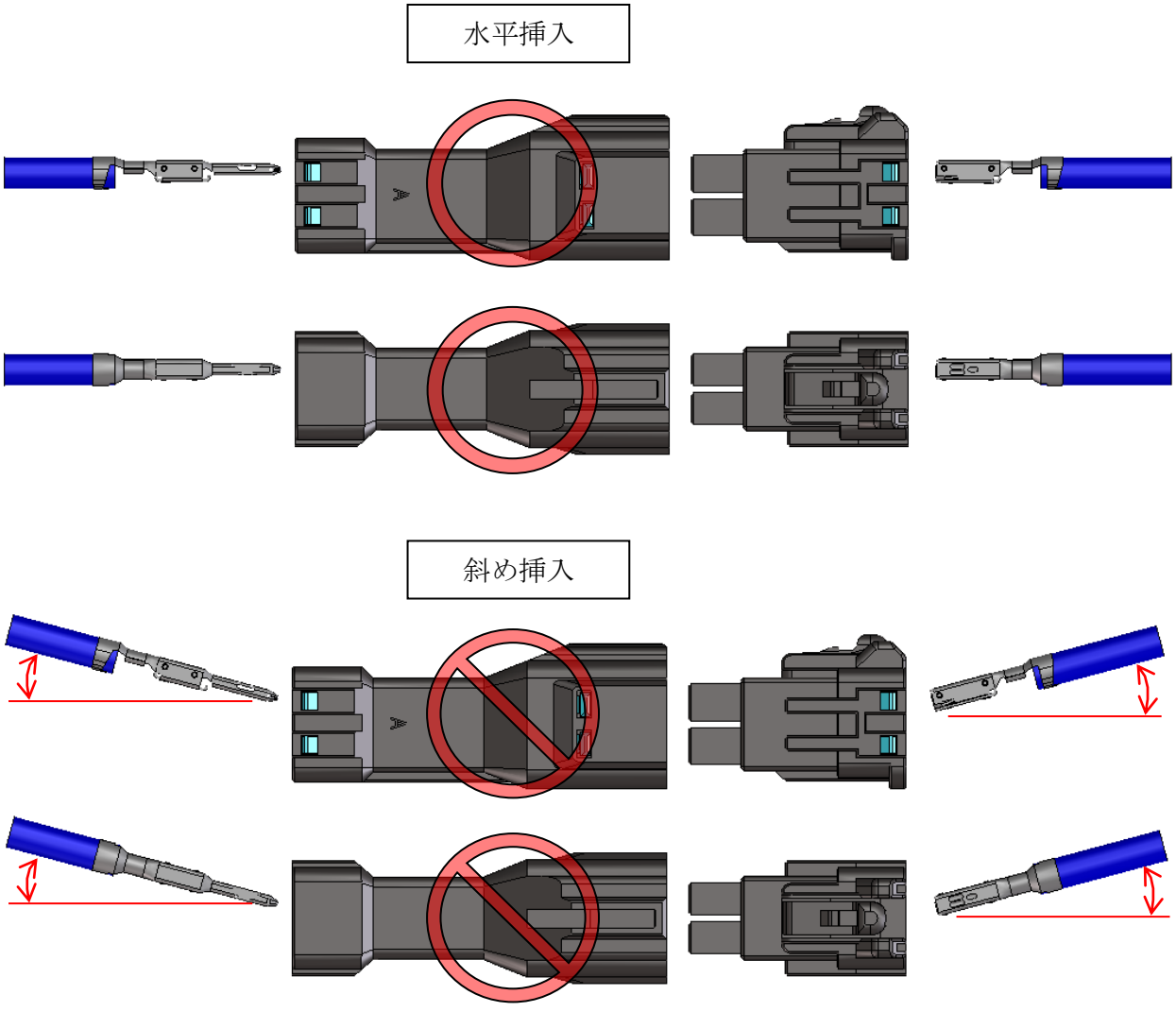


2023/05/11 12:29:20 HT.SATO

・圧着端子をワイヤーシール穴に通すようにして挿入して下さい。



・性能信頼性（接触性能、防水性能等）を維持するため、圧着端子を斜めに挿入しないで下さい。

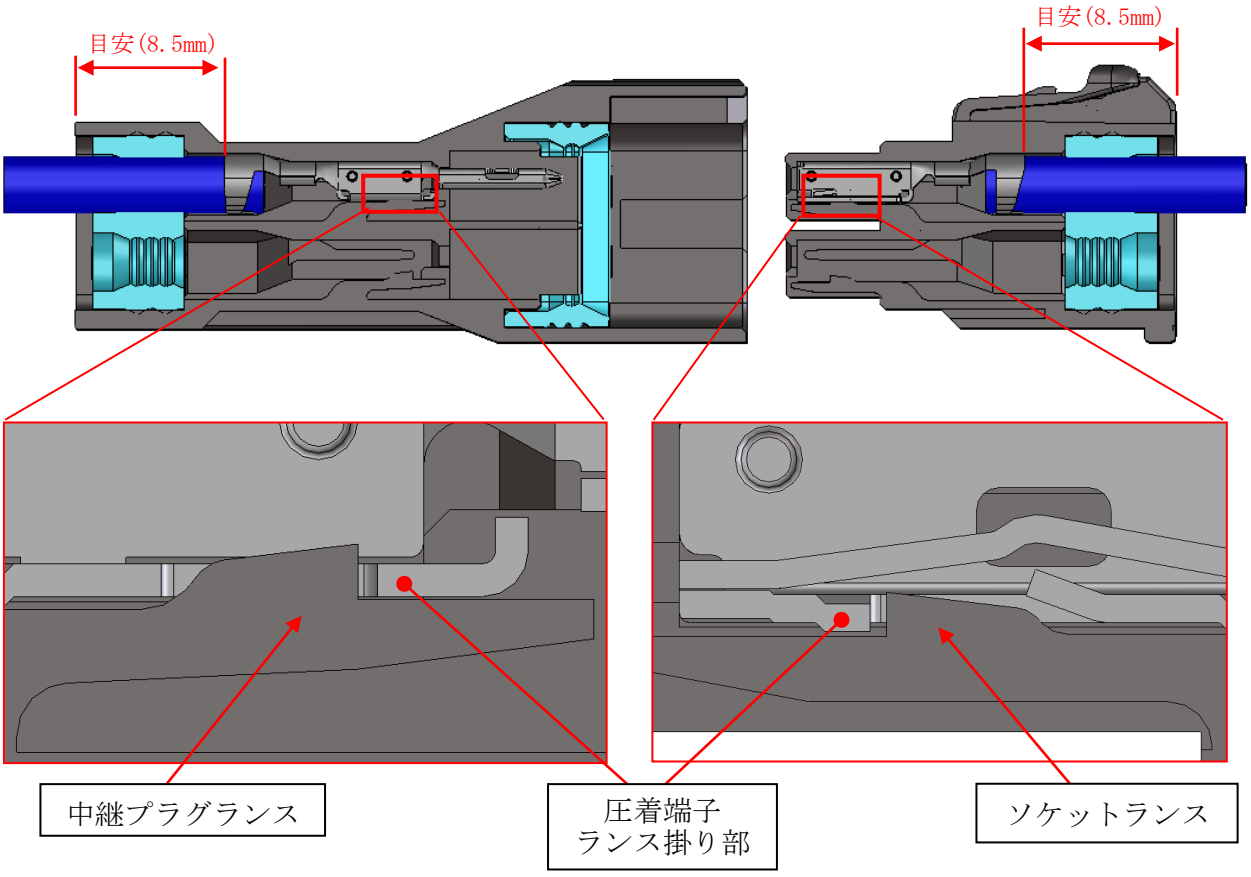


Mar.1.2024 Copyright 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All Rights Reserved.

2023/05/11 12:29:20 HT.SATO

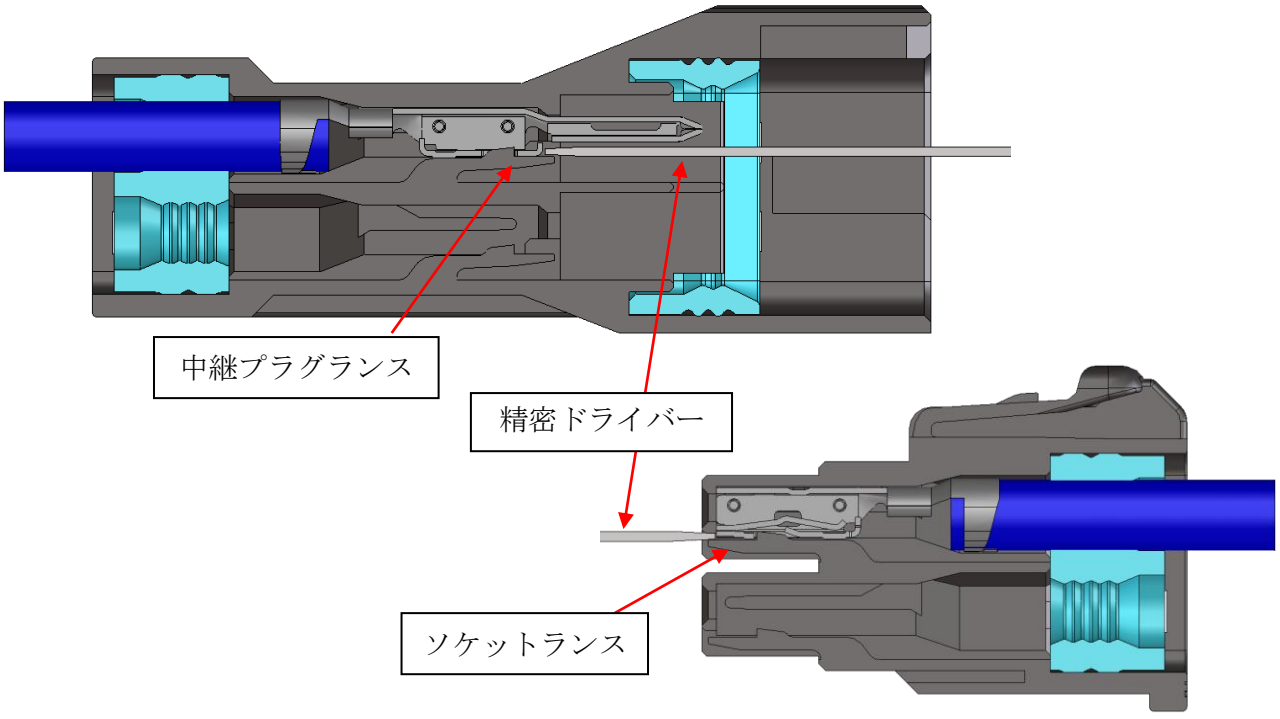
Mar.1.2024 Copyright 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All Rights Reserved.

・圧着ソケットのランスが圧着端子のランス掛り部に掛っていることを確認します。
（軽く引っ張って確認して下さい。）
※圧着端子を挿入途中で入れ直し作業を行う際、ワイヤーシールが外れないように
抑えた状態でケーブルを引っ張って下さい。



3.4. 圧着端子のリペア

一度挿入した圧着端子を抜く時は、精密ドライバー（マイナスドライバー、刃幅 1.2mm）を使い圧着ソケットランスを押し下げながらケーブルを引っ張って引き抜いて下さい。
尚、リペアを行ったことでランス強度低下・ワイヤーシール損傷の可能性があります。
リペアを行った圧着ソケットは再利用せずに新しい圧着ソケットをご使用下さい。



2023/05/11 12:29:20 HT.SATO

Mar.1.2024 Copyright 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All Rights Reserved.

4．取り扱い注意事項

4.1. 梱包・保管について

組立品を梱包・保管する際は、コネクタの重なりによるロック部へ極端な負荷がかからないように考慮下さい。
ロック部に負荷がかかった状態にて高温・高湿で長期間放置すると、ロック部が変形し嵌合不良の原因となる恐れがあります。

4.2. コネクタへの負荷について ②

コネクタに過大な負荷が加わりますと、障害や破損を引き起こす場合がありますので、無理な挿抜、落下衝撃、無理なケーブルの引っ張りや引き回し、ねじり等がないようにご配慮下さい。

注）コネクタを真直ぐ引っ張った際のロック破壊強度は約 50N（参考値）となりますので、過大な負荷が加わらないように考慮下さい。

注）ケーブルを引っ張った際の保持力は約 27N/pin（参考値）となりますので、特定のケーブルに過大な負荷が加わらないように考慮下さい。

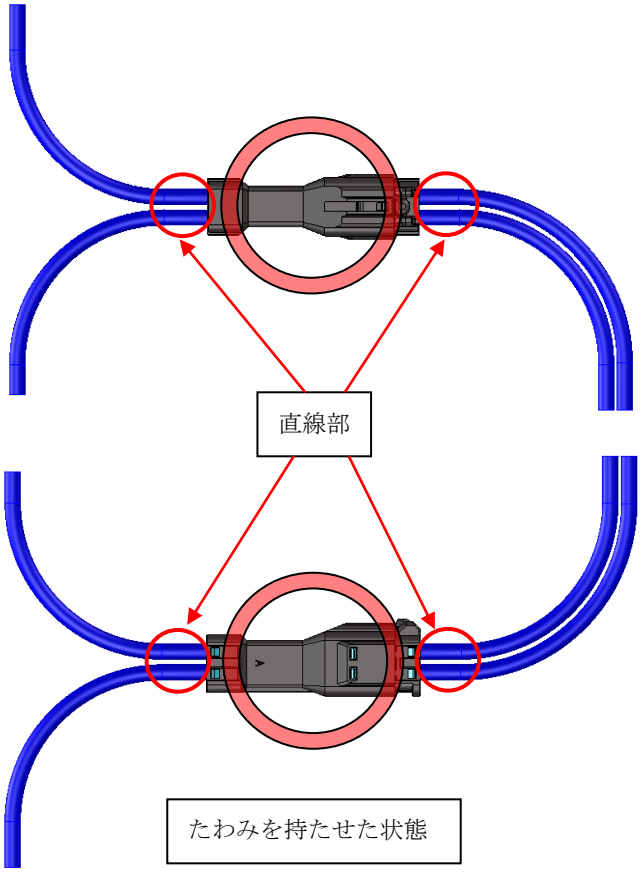
またケーブルを機器内で配線する際は、ケーブルが突っ張った状態や無理な張力が掛かった状態にならないように余裕を持たせた引き回しをお願いします。

4.3. 防水シールについて

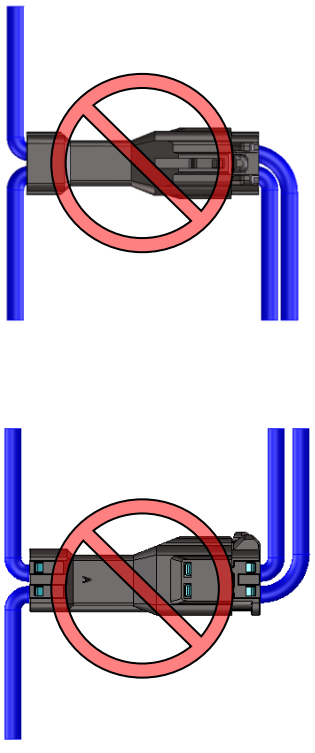
防水シールに対して傷を付けた場合、防水性能を損なう可能性が有りますので、傷が付いた製品のご使用はお止め下さい。

4.4. ケーブルの引き回しについて ②

ケーブル屈曲時は下図のようにコネクタ端面から直線部を設けて屈曲してください。
コネクタ端面から急激に屈曲した状態、またはケーブル根元が突っ張った状態は端子接点部や端子圧着部に負荷が掛かり接点不良、防水不良の原因となる為おやめください。



たわみを持たせた状態



極端に曲げる、または突っ張った状態

2023/05/11 12:29:20 HT.SATO

Mar.1.2024 Copyright 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All Rights Reserved.

4.5.ケーブルの結束ついて

ケーブルを結束する際は、図のようにコネクタ端から 30㎜ 以上離してください。
結束箇所からコネクタまでに十分な距離が無いと、コネクタに負荷が加わり端子抜け発生の原因となります。

